■ヤオモモＢＦ敗北

――『ＢＦ協会』……それは非合法競技『バトルファック』を行い、敗者を快楽と屈辱の底に叩き落とすアングラ組織である！

ＢＦ協会はバトルファックで敗北した女性選手を辱め、ペナルティと称し監禁していた。
囚われた女性を救おうと立ち向かった仮免ヒーロー『クリエティ』こと八百万百。
敵の個性により淫闘を強いられた彼女は、リング上でＢＦ協会代表ヴィランとのバトルファックに挑む！

（まさか性行為での勝負をすることになるなんて……。ですが、これも女ヒーローにしかできない務め！
必ず成功させてみせますわ！）

生真面目な八百万は、ふざけた相手やシチュエーションにも全力だ。
理不尽で理解不能な敵を相手にし、緊張してはいるものの、ヒーローの仕事として誠心誠意の気持ちで自分を奮い立たせる。
また、八百万はバトルファックなど当然ながら――そして性行為に関しても未経験だが、勝算はあった。

バトルファックのルールは精力が尽きた方の負け。
男と女では体質上、女の方が絶頂しにくく、精力が尽きにくい。つまり、女である八百万が有利だ。
そして八百万は小さな頃から恵まれた発育により、多くの視線に晒されてきた。
つまり、男が発情しやすい外見ということだ。
相手を発情させれば充分に勝ち目はある……そう考え、意を決してリングの上がる。

◆ＢＦ協会のバトルファックルール
対戦形式……
ＢＦ協会のリング上、男女それぞれ一人ずつによる一対一の対戦。
制限時間なし、ＫＯか降参で決着がつくまでの真剣勝負。
敗北条件……
精力が尽きる、失神、降参、ルール違反など。
審判が続行不能と判断した場合。
一度絶頂しても精力があれば続行可能。
禁止行為……
『個性』、凶器、ドーピングの使用。
性交やそれに類するもの以外の攻撃。性感を与えない行動全般。
ハンデ……
クリエティ（八百万百）は個性、および通常の戦闘行為が許される。

ルールが開示され、八百万はホッと胸を撫で下ろす。
ハンデが設けられているということは、八百万は相当に舐められているということだ。
それ自体は屈辱ではあるが、やはり少しでも有利に展開するのは望ましいこと。

（通常戦闘が可能なら、こちらに分があるはず！　なんとしても勝利して、囚われた方々を……）
【アンタが対戦相手のヤオモモとかいうヒーローか。よろしくな】
「ク、クリエティですわ。よろしく……お願いしますわ」

試合開始前、対戦相手のヴィラン……パンツ一丁の太った中年の男が挨拶に来る。
体型は自己管理ができていないことを如実に表しており、あまり良い印象がなかったが……
意外に気さくな挨拶であり、思わず礼儀正しく返してしまう。

（ヴィラン、違法で不健全、とはいえアスリート……なのですよね？
案外、悪い人ではないのかも……はっ！　いけませんわ、集中しなければ！）

相手が何者であろうと、ヴィランである以上は対処しなければならない。気を引き締め直し、ゴングを待つ。

『今回の挑戦者は久々の女ヒーロー！　惜しげもなく晒した爆乳を持つヤオモモ――！』
「……クリエティですわ！」

八百万は個性の都合上、ヒーローコスチュームは露出度が非常に高い。
背中、太股と大きく露出しているが、何より目立つのは顔ほどもあるバストだ。
胸元は大胆に晒されており、グラマラスなスタイルもあって特に目立つ。
クリーンな場ですらネタにされることが多いのだ、このようなアングラな場では
何の遠慮もなく好奇の視線が突き刺さってくる。

（人の胸をジロジロと……でも、これがわたくしの武器ですわ！）
『迎え撃つは、我らがＢＦ協会代表ヴィランの一人！
仮免ヒーローはどこまで戦えるか？！　試合――開始っ！』

ゴングが鳴ると同時、八百万は個性『創造』を発動。
短時間で創れる近距離用の武装……剣と盾を生成。
まずは身を固め、相手の出方を窺う算段だ。が――

ばちぃっ！
「あっ！」

機先を制したのはヴィランの方だった。
創造し、武器を持ち、構える……それらの工程を経るとはいえ、遅くはない八百万の動き。
それよりも速くヴィランは手を動かし、ジャブの要領で胸部と股間部を打ってきた。
指先は的確に乳首と陰核を捉え、衣装越しにも衝撃を与えられた八百万は小さな悲鳴を上げてしまう。

（は、速い……！　いえ、それより……）
『まずはヴィランが先制！　追撃は躱し、距離を取って構えるヤオモモ！』

構え直し、更なる攻撃を凌ぐ。身を守り、距離を置いて相手を観察するが、冷静には思考できなかった。
理由は単純に、ヴィランの攻撃で予想以上の『ダメージ』を受けたからだ。

（あの一瞬で……こんなに感じさせられるなんて……っ！）

乳首、陰核……敏感な場所を高速で突かれれば、通常なら痛みを感じるはず。
だが八百万が悲鳴を上げたのは、痛みではなく快感を感じたためだ。
中年男の指は一瞬で八百万の急所に迫った後、おそらくギリギリでスピードを落とし、
痛みがないように愛撫した後、また素早く手を戻したのだろう。
その極僅かな愛撫で、半ば驚愕もあったとはいえ悲鳴を上げるほど感じてしまう。
いくら相手が百戦錬磨のとはいえ、信じ難いテクニックだ。
本で得た知識とは異なる、半強制的な発情。
それが八百万の余裕を崩し、攻めあぐねてしまう。

（またあのように責められれば、どうすれば……？　それに、あの身体でなんて素早さ……！）

敵は移動速度はともかく、腕の責めは非常に高速。
剣を振ったところで、また捌かれてしまうだろう。
敵が近付こうとしたタイミングを狙い、『創造』で脚に装甲を纏いながら、攻防力を増した蹴りを放つ。

「はぁっ！」

長い脚が跳ね上がり、教科書通りの綺麗なキックが炸裂……するかと思いきや、
八百万の蹴り足が掴まれてしまう。

「なっ？！　あぁっ！」

掴まれないよう足元を狙ったのだが、敵の動きは予測を更に上回っていた。
怪力じみた力で脚が引き上げられ、八百万は驚愕する間もなく転倒。
更にもう片方の足も掴まれ、勢いよく宙吊りにされる。
その際に身体が揺さぶられて剣も盾も落としてしまい、実質丸腰になってしまう。

【遅いなぁ。ヒーローと言ってもやっぱ女だな】
「くぅっ！　い、いやぁっ！」
『ヴィラン、両足をキャッチ！　そして大開脚――！　股間が限界まで開かれる！
ヤオモモは武器を落として無防備だ、さぁどうする？！』

逆さにされ、股間が力任せに広げられる。
股裂きの痛み、股間が強調され観客の視線に晒される恥辱でまたも悲鳴を上げる八百万。
だが喚いている場合ではない。早く抜け出さなければ、何をされるか分からない。
身体で抵抗できないとなれば、個性を使うしかない。
脚から槍状の武器を生成することで攻撃――その考えが実行されるより早く、

敵の足裏が股間に押し当てられる。

「ひぁっ？　何を……まさかっ？！」
　ガガガガガガッ！
「やめっ♥　あぁぁぁぁぁぁぁぁぁっ♥」
『電気アンマが炸裂――！　女ヒーローの股間を高速按摩が襲う！
　ヤオモモは感じているのか？！　声が甘くなってきたぞ――！』

　敵の責めはまた予想外で、押し当てた脚を振動させることで股間に刺激を与えるというものだった。
　大きく分厚い男の足。しっかりと重みを乗せてきながら、それでいて柔らかく優しい愛撫は絶妙の加減であり
　踏まれているとは思えぬ心地よさを八百万の股間――会陰と陰唇に与える。
　敏感な部分が長く触れられることで男女の体温差も感じ、伝わってくる熱感が快感を底上げして
　甘い電流を体内へと流し込む。

（こ♥　こんな行為が♥　気持ち良いなんてっ♥　いけませんっ……逃れないとっ♥）
　ガガガガガガッ！
「あぐっ♥　あ♥　あ♥　んはぁぁっ♥」
【どうした？　まさかもうギブアップかぁ？】
「だ♥　誰が♥　降参なんてっ♥　ヒーローは♥　ヴィランにはっ屈しませんんんっ♥」
『続行の意思を見せるヤオモモ！　しかし声が震えているぞ、やはり感じているのか――？！』
「感じてっ♥　などっ♥　っはぁっ♥♥　感じてっ♥♥　いませんんんんんっ♥♥」

　確かに伝わる性感に、思わず仰け反ってあからさまな牝反応を見せてしまう。
　絶え間なく振動させられていることもあり、
　声も途切れ途切れになりながらヒーローらしく反論するが、
　それが余計におかしく見えたか、相手や観客は八百万に嘲笑をかけてくる。
　このような行為で嗤われ、あまつさえ快感を得るなどあってはならない。
　八百万は相手の足をなんとか掴み、振動を止めた瞬間に脚から小さな槍を生成して射出。
　相手は躱すが、距離を取らせたことで拘束から抜け出すことに成功する。

『おっと、ここで個性も使って何とか脱出！　仕切り直せるか？　いや……』
（電気アンマ……何て威力ですの……♥　何とか、立て直さなければ……）
　ぎゅむぅっ♥
「あぁぁぁっ♥」
『ヴィランがすかさずホールド！　後ろから抱き付いて胸を揉みしだく！』

　解放されたはいいが、逆さ吊りであったため体勢を立て直すのに手間取ってしまった。
　快楽は股間にびっしりと張り付いたままであり、それが動きを緩くさせ、
　その隙に後ろを取られてしまう。
　節くれだった大きな指が胸を鷲掴みにし、再び送られる熱感と絶妙な刺激。

性感帯としては未発達なはずの八百万の胸をすぐさま発情させ、
快感に苛まれて個性の発動も護身術も使えなくなる。

『ついに捕まった爆乳！　揉まれて上下左右に揺さぶられる！』
「ふあっ♥　あんっ♥　ん♥　こ、のぉ……っ♥　あぁぁっ♥♥」
【随分と感度がいいな。電気アンマで感じてたからか？　それとも胸が弱いのか？】
むにゅっ♥　ぶるん♥　にゅむぅぅっ♥
「は♥　あ……♥　感じてなど……いませんわ……♥　このような行為♥　なんともっ♥」
【ホントかぁ？　デカ乳見せ付けてた淫乱のクセによく言うぜ！】
くりぃっ♥
「ああっ♥♥　そ♥♥　そこはっ♥♥」

男の責めが乳房から乳首へと切り替わる。
愛撫により、早くも勃起してしまっていた乳首。
爆乳に相応しい大きさとなり、熱く疼いていた乳端を摘ままれた瞬間、
八百万は切ない喘ぎを弾けさせる。
摘まみ上げられたことでコスチュームの上からも形が浮き出て、卑猥に強調された勃起乳首。
それが強く、時には優しく焦らすように撫でられ、潰され、
そのたびに胸の中心に向けて媚熱が突きつけられていく。
電気アンマに続き、ほぼ開発などしていない部位での快感。
それは生真面目で実直な八百万を大いに揺るがせ、精神が縮こまってしまう。

「あぁっ♥♥　あ♥♥　はぅぅんっ♥♥」
（何とかしなくては♥　でも、どうすれば……♥
こ、これほど……気持ち良いなんて♥　身体の力が……抜け……♥）

性感を得にくいはずの自分の身体が、みるみる追い詰められていく。
甘い感覚に力が入らず、今まで感じたことのない浮遊感じみたものが下腹部から胸に込み上げてくる。
美貌が僅かに蕩けたのを察した男は、その瞬間に指の力を強め――

【ヒーローもこんなもんか……よし、そろそろ一回イッとけっ！】
ぎゅむっ♥♥　ぎちゅぅぅぅっ♥♥
「あぁぁぁっ♥♥　そんなに♥♥　強くされたらっ♥♥　ダメです♥♥♥
何か♥♥♥　キて♥♥♥　――――～～～～っっ♥♥♥」
（これは♥♥♥　まさかっ♥♥♥　ダメ♥♥♥　キてるのが……止められないぃぃぃっ♥♥♥）
『絶頂――――！！　ヤオモモ、爆乳と乳首への責めに、小さくだがイッてしまった――！』

ゾクゾクするような、蕩けるような、何とも表現できず、そして抗いがたい感覚。
それが人生初の絶頂だと気付いた頃にはもう遅く……
乳首が一気に熱くなった瞬間、八百万は身を震わせながら声にならない叫びを上げていた。

【チッ、完全じゃねえな、半イキってとこか……まぁいい。
どうだ、男の手でイカされるのは初めてだろ？　それともイクの自体が初めてか？】
「あ……♥♥　あぅぅ……っ♥♥」
（イッ……た……？♥♥　わたくし……イッて、しまいましたの……？♥♥）
『今のダメージが大きいか？　ヤオモモ、へたりこんでしまった！　これは勝負あったか？！』

粗雑ながらどこか優しさのある男の言葉。それに対し、八百万は絶頂のショックで返答できない。
完全か不完全かなどは問題ではない。人生で初のオーガズムが、
よりによってヴィランの手による衆人環視の下で行われたことが何より辛く、
失意のあまりうずくまってしまう。

（こんな、はずじゃ……♥♥　胸で興奮するのは、男性のはずでは……♥♥）

快感とショックで動けない。……だが、その間にヴィランは仕掛けて来ない。
八百万が回復するのを待っている――嘲笑って眺めているのだろうか。
しかし、もうどうしようもないのでは……動けない八百万に痺れを切らし、
ヴィランが股間を近付ける。